

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2019 市民／学生応募用紙

|                   |                         |                              |             |
|-------------------|-------------------------|------------------------------|-------------|
| 地域課題タイトル<br>(注1)  | No.<br>27_1/1_2         | タイトル<br>地域課題の解決に向けた動きをつくる取組み | 自治体名<br>那覇市 |
| アイデア名(注2)<br>(公開) | わったーまちのすぐりむん(我らが地域の自慢話) |                              |             |

(注1) 地域課題タイトルは、COG2019 サイトの中に記載してあるエントリー自治体(連合)が掲げる地域課題を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームが応募されるアイデアにつけるものです。アイデアにふさわしい名前を付けてください。

### 1. 応募者情報

|           |  |       |  |
|-----------|--|-------|--|
| チーム名(公開)  | ごきげんヒュータンズ   |       |  |
| チーム属性(公開) | <input checked="" type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム |       |  |
| メンバー数(公開) | 名  |       |  |
| 代表者情報     | 氏名(公開)   | 萩原 雄三 |  |
| メンバー情報    |  | 小濱 裕子 |  |

**(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。**

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2019\_応募用紙\_具体的チーム名\_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2019 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin\_padit\_cog2019@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：
 

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「3. 自治体との連携」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様でお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

## 2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

### (1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、課題解決のために、何をやる社会的なサービス（活動）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなワクワク感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題>

那覇市の壺屋小学校区の、世代間（焼物の伝統工芸、祭りごとの伝統文化の継承や考え方）、住民間（土地やコミュニティに対する価値観）、エリア間（違う中学に行く壺屋・安里・牧志、行政地域の違う自治会、校区見直しによる追加地域）のギャップや互いへの無知識・無関心による、コミュニケーションの不具合。

<解決アイデアの内容>

#### ◆アイデアのポイントとテーマ

我々のプロジェクトでは、100人のヒーローを作ります。我々が考えるヒーローとは地域の自慢話を言霊に載せて発信できる人のことです。ヒーローの活躍により、地域を知り地域を好きになります。ヒーローの活躍により、互いの地域を理解しあい、リスペクトし合い、将来的には地域住民全員がイキイキと過ごすことができるようになります。

このプロジェクトのテーマは、“つながる”ことのきっかけづくりです。些細なことでも、お互いを知って、尊重していくことが第一歩だと考え、企画をつくりました。

#### ◆アイデアの概要

この企画は「地域の自慢話を100個集めて、上映会をしよう！」というものです。場所は、壺屋小学校校庭に学校のイスを並べ、那覇市の大型ビジョンカーで上映します。

#### ★プログラム★

##### ①100人インタビュー上映会

(30分2回)

##### ②地域代表3人によるクロストーク

(15分2回)

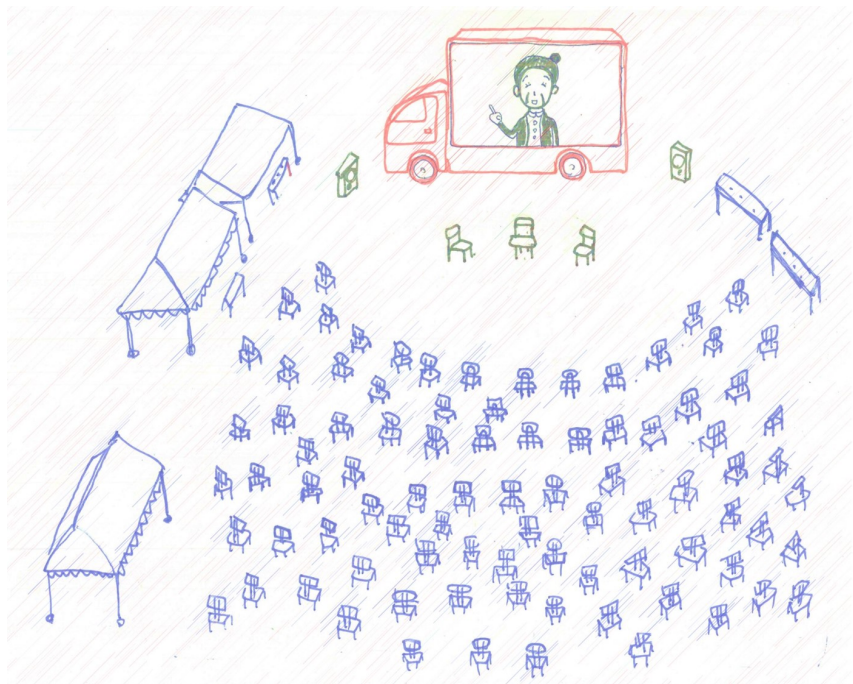
##### ③おまけのプログラム

- ・ソウルフード（ガリガリ〜）
- ・アーカイブ映像
- ・まちまーい（街歩き）
- ・伝統芸能の共演

上映会は3ヶ月に一度（年四回）

のペースで定期開催していきます

（沖縄は冬でもグラウンドで集まります）



<イベント会場イメージ>

◆プログラムの内容

①100人インタビューの上映会（30分2回）

インタビューは、それぞれの地域で、頑張っている人、味のある人はもちろん、子供や外国人など…100人に行います。あえて余計な映像は入れず、一人3～5分の“語り部”言葉だけで綴り、編集します（綿密な準備やかなりの技量が必要であると予想されます）。

②地域代表3人によるクロストーク（15分2回）

テーマにちなんで、各地区（壺屋・安里・牧志）の代表者で、感想をおしゃべりしてもらいます。3人のイメージは、「旗頭の代表・老舗店主・成人式をむかえる二十歳の子・百歳3人!」などなど。その結果、会場にいる人、それぞれの色んな気づきが期待されます。

③おまけのプログラム

お楽しみは食べ物提供。40～50年前壺屋小学校の近くで売られていた、サツマイモをうすく揚げて砂糖と塩をまぶした「がりがり〜」、その他一銭まちやぐわ（駄菓子屋）で売られていた塩せんべいなど、盛り沢山。  
・米国統治時代は一セントまちやぐわ で売っていたものなどのソウルフードを提供し、記憶の再現・会話の醸造に役立ちます。

他にも、開演前の待ち時間などに、古い8mm映像など古い地域の様子や行事が映った懐かしアーカイブ映像やそれと比較する現在の写真や映像を流すことを実施する。

また、テーマに応じて地域を紹介する「まちまーい（街歩き）」や「伝統芸能の共演」なども可能である。

### 100人インタビュー

どんな内容？

▼

人間性  
地域への愛着  
“言葉の力”  
でイメージを

多世代/多様/地域バランス

場所・風景  
 食・老舗

有名人名  
 伝統文化

### 3人トーク

テーマにちなんで  
各地区から1人  
映像の感想  
要は、おしゃべり

▼

相互理解  
映像のふりかえり  
オーディエンスの  
気づき

発見

××のそれいいね〜  
そんなことやってたわけ〜？  
知らなかったさ

発信

：実はウチもこんなこと  
やってるよ〜

交流

：すごさ！こんど教えて！  
：いいよ。手伝うよ

尊敬

：あのTVのおばさん、  
まだ元気だね〜  
昔からあんなよね〜

共感

：やさっ！

アイデンティティの醸成

### おまけ

食べ物ある？

▼

ソウルフード販売

- ガリガリ〜
- おやつ天ぷら
- 塩せんべい

### おまけ

ほかには？

▼

- アーカイブ映像  
懐かし8mm

テーマに応じて…

- まちあるき
- 芸能共演

アーカイブ映像

## (2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの資料や関連の計画、既存の施策などの定性データのことを総称します。データは出所を明らかにしてください。

那覇市は、小学校区コミュニティ推進基本方針の中で、我が国は、現在、急激な少子高齢化の中にあり、本格的な人口減少が今後加速度的に進むことが見込まれる中、既存の地縁組織を超えた仕組みをつくり、希薄化する地域コミュニティを再建するための「新たなコミュニティ」の在り方として、小学校区を単位に「校区まちづくり協議会」の設立を推進しています。現在10校区ほどで協議会・準備会が立ち上がっており、近年中に36校全てでの設立を目指しています。今回の対象とした壺屋小学校区は、「校区まちづくり協議会」の声は上がっていない。地域の特色を探るために住民や労務者の声のヒアリングや文献・データ等の調査を行った。

壺屋小学校区には中学校がない。小学校を卒業すると大きく3つの住所（壺屋・安里・牧志）ごとにそれぞれ違う中学校へ進学する。那覇市では中学校ごとの成人式を開催するため、小学校単位の仲間意識は薄い。更に安里地域は、平成24年度の学校適正配置での近隣マンモス校より通学区域変更により壺屋小学校区となったため、親子で学校が異なるなどの小学校単位の地域意識は更に薄くなる。

また、壺屋小学校区には、壺屋地域に1つ、安里地域には2つの自治会があり、牧志地域には自治会がない。自治会の行政区分として壺屋地域は本庁ブロック、安里地域は真和志ブロックで、ブロックを超えた交流は極端に少ない。また壺屋地域の自治会は、既存の財産管理を行うという二面性を持っており、新旧住民の交流が起きづらい。

3つの地域はそれぞれ背負ってきた歴史も大きく違う。壺屋は、戦後最初に窯業に特化し復興が行われた場所である。焼け野原の那覇で、戦前中心市街地だった港近辺は米軍施設となり、湿地帯の丘に食器を中心に壺屋焼きの工房が並んだ。その地域は職人と家族しか住めない限定地域で、その隣の牧志に戦後復員してきた人が集まり、闇市から商売を始めた。安里は、離島出身者が多いとされており、他の地域とは違う文化もあるといわれている。それぞれの地域に誇りとプライドを持っている世代がいる反面、中途参入者は地域への関心が薄い。また、牧志の国際通りや平和通りなどの中心商店街、壺屋の壺屋やちむん通りなどは外国人を含む多くの観光客が多い。

※地図は那覇市ホームページ：那覇市立小学校区別区域マップを利用





壺屋

安里

牧志

3つ地域のそれぞれの特徴として下記のことがあげられる。

壺屋地域は、やちむん（焼き物）の街。焼き物職人の街であり、焼き物販売の街でもある。那覇市壺屋やちむん博物館があり、東ヌ窯（アガリヌカマ：登り窯）や東ヌカー（アガリヌカー：拝所）や新垣家住宅（陶工の古い住宅）などが、文化財として存在する。

牧志地域は、国際通りの一部やアーケード街の平和通り、校区から少し離れたところに牧志公設市場も近くにあり戦後商店街・県民市民の台所として繁栄してきた地域である。また那覇市を東西に分けて競う那覇大綱挽きに活躍する旗頭にとっても熱心な地域で、毎年必ず先頭で演舞する東地区の一番旗である（壺屋にも安里にも旗頭はある）。

安里地域には琉球八社に数えられる安里八幡宮（琉球王朝時代尚徳王が、喜界島征伐の祈願を行ったと伝えられている）や八幡神徳寺、金満宮、浮縄御嶽（うちなーうたき）など、伝統的な寺院や拝所が多くある場所である。那覇市の無形文化財に指定されているフェーヌシマ（南之島）という地域伝統芸能がある。フェーヌシマは棒踊り・サルゲーイ（猿返り）・ヒュータン（瓢箪）踊りの3つの演舞で構成され、一時は現在のエイサーのように県内各地に分布し、全島大会があったほどで、安里地域は他の地域があこがれるアクロバティックな演舞で有名だったが、現在保存会は2人のみで、地域にも継承者がいない状況である。

これらの特徴は全て、地域の誇るべき財産である。しかし、現在は他の地域だけでなく、地域内の住民さえも認知されていないことも多くある。これらを広く共有することで、自分たちの生活している地域を知り、理解が生まれ、誇りが生まれ、好きになる。お隣の地域を知ること、互いを知り、尊重しあう関係が生まれ、続く。その、“つながる”ことのきっかけづくりとして、自慢話をそれぞれがしてもらおうというプロジェクトである。

地域の自慢は、地域の数だけ、住んでいる人の視点の住民の数だけあります。壺屋小校区の壺屋・牧志・安里でのモデルケースで見本の提示をした後には、那覇市が進めるまちづくり協議会の小学校区それぞれに広げられるワクワクいっぱい企画である。

### (3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2 ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

このプロジェクトは、地域の自慢話を「集める」「まとめる」「広げる」という大きく3つの工程に分かれます。

「集める・まとめる」は、「人を選びインタビューして、編集する」、「広げる」は「人を集めて上映会をする」ですが、どのレベルを目指すかによって、金額が大きく変わってきます。その映像を見て地域を好きになる、自分も出て自慢話をしたいと思う最低限のクオリティーは守っていかなくてはならないと考えます。この企画書では予算取り先（資金提供者）の目的に応じて、提示させていただきます。

#### ◆デモ映像の作成

- ・商店街のインタビュー映像に長けているプロの製作者に依頼する
- ・壺屋小学校区モデルとなる3名の選択する（候補として壺屋は焼き物関係者、牧志は旗頭関係者、安里はフェースシマ関係者）
- ・3名及び、壺屋小学校関係者（校長やPTA会長など）に企画全体の趣旨の説明する
- ・ジャンルは違いますが、同じテーマの質問を重ねて3人で一作品として映像をまとめる

#### ◆「カネ」予算入手方法

- ・デモ映像をツールに予算取り先に提案プレゼンを行う
- ・目標獲得予算 1000 万円
- ・提案候補（目的）
  - ・那覇市まちづくり協働推進課（校区まちづくり協議会の推進）
  - ・那覇市文化振興課（地域伝統芸能の認知や継承）
  - ・那覇市なはまち振興課（中心商店街の活性化、テンプス那覇の大型ビジョンの活用）
  - ・那覇市新市民会館「なはーと」の常設展示映像として
  - ・那覇市市制 100 周年記念事業として
- ・沖縄県
- ・タイアップ・協賛先（沖縄県内テレビ局・ラジオ局、新聞社、県内企業、銀行、自治会）

#### ◆「ヒト」つなぎ方法

- ・メインメンバーを中心に、協力者を募り、継続開催をしていく。
- ・メインメンバー
  - ・ごきげんヒュータンズ（7名）
  - ・壺屋小校区の住民（在住者・在職者・学生、インタビューされる人・クロストークする人・お客さん）
- ・協力予定者
  - ・なは市民協働大学院 OBOG メンバー（100名）
  - ・なは協働大使（600名）
  - ・なはマチグワー連携プロジェクト
  - ・なは市民協議会（50名）
  - ・商店街（那覇中心商店街連合会・国際通り商店街連合会）

- ・那覇まちゼミの会
- ・那覇市校区まちづくり協議会連絡会
- ・行政（那覇市・沖縄県）
- ・那覇市観光協会（那覇まちまーい）
- ・FM 那覇（地域のコミュニティ FM 局）
- ・県内マスコミ各社（テレビ局・ラジオ局・新聞社・雑誌者）
- ・製作者（インタビュアー・編集者・構成者）
- ・那覇市民・沖縄県民・観光客（来場者）

#### ◆「モノ」の活用

##### ・必要とされるモノ

- ・壺屋小学校校庭及びイス、テント
- ・大型ビジョンカー（那覇市）
- ・撮影機器・編集機器・音響機器・照明機器
- ・ガリガリー（当時作っていた方とコンタクト済）
- ・天ぷら（現在作っている店舗とコンタクト済）
- ・塩せんべい
- ・案内チラシ
- ・当日パンフレット

##### ◆上映会以外の活用方法

- ・テレビ番組での放映
- ・ラジオ番組での放送
- ・テンプス那覇（那覇市国際通り）の大型ビジョンでの放映
- ・ネット配信（YouTube チャンネルなど）
- ・DVD 販売

##### ◆その他の考察

- ・今後の検討として、継続自走できるためには収益性を検討する必要がある。
- ・他地域への広がりが十分期待できる（パッケージ販売も可能）
- ・ヒーローを是非是非作っていきたい

